

現地での様子(引き渡しセレモニー)及びはしご車技術指導の様子

今回、消防車 8 台、救急車 6 台、可搬式ポンプ 2 台をザンビア共和国の地方自治住宅省へ寄贈し、現地でその引渡しセレモニーが行われました。車両は日本の自治体から譲渡頂き、日本の人々の善意に支えられた国際協力となっています。

タンザニアのダル・エス・サラーム港を經由し陸路をタンザニア共和国の首都ルサカへ到着後、平成 23 年 7 月 8 日に引渡式が行われました。日本国側は、駐ザンビア日本国大使館から桑原敦代理大使、当協会事務局長の寺田恭子が、先方からは地方自治住宅省のクリスタ・カルル事務次官ほか消防関係者らが出席しました。式典では、100 人近いゲストやメディアが集まる中、寄贈車両を使ったデモンストレーションも行われ、盛大な式典となりました。

<p>1 ルサカ中央消防署において、引渡式に臨む消防車。各車両の配備予定先から担当者が引取りに集まりました。</p>	
--	---

<p>2</p>	<p>引渡式には、ゲストやメディアを含め 100 名近くの関係者が集まり盛大に行われました。</p>	
<p>3</p>	<p>引渡式においてスピーチする駐在ザンビア日本国代理大使の桑原敦氏。</p>	
<p>4</p>	<p>引渡式においてスピーチするザンビア地方自治住宅省事務次官のクリスタ・カルル氏。</p>	

<p>5</p>	<p>寄贈された車両を前に、改めてこの度のプロジェクトの成功を祝福するカルル事務次官(左)と桑原代理大使(右)。後方に待機する日本外交協会の寺田事務局長より車両の鍵が手渡されました。</p>	
<p>6</p>	<p>引渡式では、寄贈されたはしご車及び救急車を使ったデモンストレーションも行われました。訓練用タワーに火災を起し、屋上へ逃げた市民を救出する想定で実施されました。救出された負傷者は、脇で待機している救急車ですぐに搬出されました。</p>	

<p>7</p>	<p>引渡式に集まったメディアの取材に応じるカルル事務次官。</p>	
<p>8</p>	<p>引渡式に集まった関係者全員による記念撮影。</p>	
<p>9</p>	<p>この度はしご車を寄贈するにあたり、(株)モリタテクノスより技術者の高野氏(右)を派遣いただき、はしご車の操作方法や日常の点検整備といった車両の安全運用のための短期研修を実施しました。</p>	

<p>10</p>	<p>研修中、高野氏からの説明に熱心に耳を傾け、コントロールパネルを真剣な眼差しで覗きこむ消防隊員たち。</p>	
<p>11</p>	<p>説明を受け、実際にコントロールパネルではしごを操作する消防隊員。</p>	
<p>12</p>	<p>実際に、梯子の先端のバスケットに乗り込み訓練を行う消防隊員。  中央の防火服を着用しているのが、ロバート・バンダ隊長。</p>	

<p>13</p>	<p>ルサカ中央消防署で、唯一稼働している水槽付ポンプ車。</p>	
<p>14</p>	<p>首都ルサカで唯一機能し、首都の防災を支えるルサカ中央署。</p>	